



雪中のミヤコザサ(三本杭)

かざね
四万十の風音
 しんせん
森&川だより



高月山(1229m)八面山より

◇森林体験学習・森林教室等の開催

◆四万十川流域の小中高校の森林教室を支援◆

当センターでは、9月から12月上旬に掛けて、四万十川流域で小・中・高校が実施する森林体験学習・森林教室等の支援を行いましたので紹介します。

例年、この時期は各学校から支援の要請が集中し、要請内容も多岐になりますが、子どもたちには工夫を凝らし解りやすい指導に努めています。

※炭づくり体験

- ① 9月24日 鬼北町立日吉中学校
2年生19名
(竹、マツホヅクリ、折鶴等)



炭窯作成中



出来上がった竹炭

- ② 9月26日 松野町立松野西小学校
4年生36名
(マツホヅクリ、トングリ等)



炭について学習



熱！只今炭焼中

※森林教室・木エクラフト

- ① 10月9日 大月町立弘見小学校
1・2年生48名
(校庭の樹木の学習及び樹木名板作製取付)



樹木名板作製中



樹木名板の取付

- ② 10月10日 四万十市立中村南小学校
4年生36名及び保護者33名親子木工教室
(カブトムシ・クワガタムシ等)



親子でワイワイガヤガヤと熱中?!

③ 10月16日 四万十市立後川中学校
3年生4名木工教室
(額縁作製)



4名で全員



完成した額縁

④ 11月6日 宿毛市立栄喜小学校
全校生徒17名
木工教室(キーホルダー等)



考え中?!



完成: キーホルダー

⑤ 11月13日 鬼北町立日吉中学校
全校生徒44名
木工教室(キーホルダー等)



只今木工に熱中!



見事な作品です。



サンタ、タヌキ?

⑥ 11月14日 松野町立松野南小学校
全校生徒12名
木工教室(キーホルダー等)



出来上がったキーホルダーに満足!

⑦ 11月28日 四万十市立川崎小学校
5年生7名
木工教室(キーホルダー等)



完成作品に納得の笑顔で!

⑧ 12月2日 四万十市立後川中学校
1年生9名
(学校林にて森林教室)



森林の働きについて学習

- ⑨ 12月 5日 松野町立松野西小学校
4年生36名
(樹木名及び種子の学習)



種子の飛び方を勉強中!

- ⑩ 12月 8日 大月町立弘見小学校
6年生33名
木工教室(キーホルダー等)



足で押さえつけ鋸も上手に!

※林業体験

- ① 9月28日 大道マツ自然再生地
一般ボランティア及び高知県立四万十高校
一般14名と高校生8名
林業(下刈作業)体験



ボランティアの参加者



初めての下刈体験

- ② 11月11日 神奈川学園高校(神奈川県) 2年生33名
(八面山ブナ林散策及び間伐体験)

11月11日、横浜市の神奈川学園高校2年生33名が、四万十川の支流、黒尊川源流域の「八面山」に登山。



今回は、森と川の関係や自然や環境をテーマにして参加した生徒が多く、山歩きと眺望を楽しみながらも、

シカの食害や土壌などの質問がありました。

また、宿舎で樹木当てゲームが予定されていることから、歩道沿いの樹木説明では、デジカメで撮影したり熱心にメモを取ったりしていました。

午後は、黒尊山に移動して間伐を体験。生徒たちは、間伐の重要性は学習済みとのことでしたが、

作業は初めて。職員から安全作業の心構えを聞き、五班に分かれて開始しました。



初めて間伐体験する女子高校生

ノコギリを手際よく扱う生徒、思い通りの位置に切れない生徒と様々でしたが、約1時間かけて各班2本程度の間伐ができ、満足そうな表情でした。



自然再生の説明に聴き入る高校生

黒尊川源流域での学習は一日だけでしたが、同校の近くを流れる鶴見川との違いを理解してもらうフィールドワークとなりました。

- ③ 12月10日 四万十町立昭和中学校
全校生徒32名
(間伐体験)



与作は木を伐る♪



女子だって！



二人協力して！



生徒で机を作る材料に！

※登山・森林散策

- ① 10月2日 四万十市立本村小学校
全校生徒31名
(土佐堂ヶ森山登山)



全校生徒は31名

- ② 10月27日 大月町立弘見小学校
4年生21名
(八面山ブナ林散策等)



ブランコに歓声！



ブナ林での森林教室

- ③ 10月28日 四万十市立具同小学校
5年生80名
(八面山ブナ林散策等)



森林の働きについて学習

- ④ 10月29日 四万十市立後川中学校
全校生徒22名
(篠山天然林散策等)



森林の仕組みについて学習

- ⑤ 11月4日 高知県立四万十高校及び十川、昭和、大正、北ノ川各中学校91名
(四万十川源流域での森林環境教育)

－四万十川源流域の国有林で、四万十森林管理署と合同で森林環境教育を実施－



四万十川源流点での説明に聴き入る中高生

11月4日は、四万十町にある四万十高校と十川・昭和・大正・北ノ川の各中学校の生徒等91名が、津野町にある不入山(船戸山国有林)を訪れました。

当日は、四万十川の源流点や源水の地及び代表的な人工林である「西の千本」をフィールドとして四万十川源流域の森林生態系などの学習を行いました。



源水の地の標識(源流点の上方)

また、源水の地では、四万十川の始めの一滴を見学、疲れも忘れて感動の様子でした。「西の千本」では、既に「魚梁瀬千本山」を見学している四万十高校生が、比較しようと熱心に説明を聞く姿が見られました。

- ⑥ 11月5日 四万十市立下田小学校3・4年生28名
(八面山ブナ林散策等)



ブナ林を散策する子供たち!

- ⑦ 11月12日 四万十市立西土佐中学校1年生24名
(八面山ブナ林散策及び植樹体験)



八面山山頂にて



初めての植樹体験：西土佐中の生徒

⑧ 11月18日 四万十市立津野川小学校、大月町立柏島小学校、各全校生徒48名（西土佐郷土の森のヒノキ仙人及び津野川小学校で森林教室）



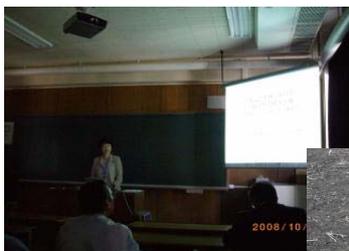
デカ！ヒノキ仙人に触れる子供たち



森林の働きについて学習

◇日本森林学会で研究発表

10月18日に開催された、第59回日本森林学会関西支部日本森林技術協会関西・四国支部連合会合同大会において、当センターの武内自然再生指導官が、「滑床山国有林におけるシカ食害地の植生回復―裸地化したササ生地の再生について―」と題してこの大会では初めて発表しました。



発表する武内自然再生指導官



生育良好なミヤコザザ

◇森林環境教育の支援

◆知っていますか？森林の働き◆
―「総合学習」で講演―

宇和島市立城北中学校では、10月の「総合学習」の時間に、外部講師を招いてその分野の話の聞き、知識を深めています。

10月21日は、「森林の働きを知ろう」の学習が企画され、1年生138名を対象に2時限にわたって秋山所長が講師を務めました。



講演する所長

始めに、ふれあいセンターが取り組んでいる自然再生事業や森林環境教育について説明。この中で、シカの食害が生徒達の身

近な山である滑床山にもあると聞き、大変驚いた様子でした。続いて、国土の保全、水源かん養、林産物の供給、自然環境保全など森林の持つ様々な働きについて、生徒への質問を織り交ぜながら写真やイラストを使って説明。生徒からは、「森を助けるのにもお金がいらしますか?」「今地球にはどれくらいの森林がありますか?」などの質問があり、事例やデータを紹介しながら理解してもらいました。

最後に、生徒代表から「今日は、森林の学習ができてよかったです」とお礼の言葉があり、森林への関心を深める出前教室となりました。

山頂では、南予アルプスの山容が堪能できました。



地元の地域興し主催のイベントに参加

◇「南予アルプスの魅力を語る会」で講演

1月15日、鬼北町の成川溪谷休養センターにおいて、秋山所長が、「滑床山国有林のシカ食害地の植生回復」と題して講演を行いました。参加者は、食害写真などを目の当たりにして驚いた様子で聞き入っていました。



説明する所長



マツボックリのクリスマスツリー



クマさん完成

◇しまんと黒尊むらまつりへ参加！

◆木工教室と八面山登山案内の支援◆

1月22日、四万十市西土佐黒尊で「しまんと黒尊むらまつり」が開催されました。当センターは木工教室と登山案内を担当しました。木工教室では、順番待ちの大盛況で完成した作品を子供たちは大事そうに持ち帰っていました。

また、絶好の登山日和に恵まれた八面山



八面山(1,165m)登山の参加者

◇滑床山植生回復現地検討会の開催

◆ミヤコザサ試験地：滑床山（三本杭）◆

11月19日、関係機関、有識者等の出席を得て、「第四回滑床山植生回復検討会」を開催。今回の検討会は、平成19年3月にボランティアの方々の協力を得てミヤコ

ザサの移植を行った箇所^①の生育状況等を現地で見させていただき、併せて今後の取組について意見・提言を聴くために開催しました。



意見交換会

当日は11月中旬としては思いもかけない雪の中、約二時間をかけ歩き、「たるみ」でミヤコザサの生育状況を確認。試験地では森林総合研究所四国支所の奥村主任研究員から滑床山周辺のシカ被害の実態やこれまでの調査結果等の説明がありました。



根付いたミヤコザサ

参加者からは、「ササが活着していない箇所には再度移植をしてみても」「シカ被害を受けている箇所が近隣にも見受けられる」「防護ネット内にもアセビが多いがアセビはこのままでも良いか」など多くの意見が出され、今後の取組としては、継続してモニタリングを行うと共に、提言された内容については、有識者の意見等も聴きな

がら検討をしていくという方向性を示し閉会しました。

◇国有林野事業業務研究発表会へ

11月27日、林野庁において開催された平成20年度国有林野事業業務研究発表会において、「大道マツ再生の取り組みについて」を隅田自然再生指導官が発表しました。

優良な建築材として名高い天然アカマツ「大道マツ」は、マツクイ虫被害のため激減。「大道マツ」の再生（天然更新）事業を地元の住民や小中高生等を含むボランティアにより実践した再生報告です。

4年生となった「大道マツ」も現在順調に生育しています。



下刈作業



高さ60cm以上(4年生)の大道マツ

◆四万十川沈下橋シリーズ①



四万十市岩間



岩間の沈下橋